

# 2024年度 入学試験 学特入試 I

## 国語

※問題は1ページから13ページまであります。

※マークシートに、受験番号・氏名・科目を正しく記入してください。

※解答は、すべてマークシートに記入してください。

※書き誤りをしたときは、きれいに消してから、新しい解答を記入してください。

学 特 入 試 I	受 験 番 号		氏  名	
-----------------------	------------------	--	------------	--

高崎健康福祉大学高崎高等学校



□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

スポーツ、さらに総合的な言葉でいえば体育は、じつは必ずしも美しさを追求するものではなかった。近代体育はまず何よりも軍事教練として始まった。ヨーロッパの後を追うように近代化に励んだ日本においてはさらに著しいが、それはまず国民の体力の向上を目指すものだったのである。その最大の視覚化が軍隊だが、軍隊の予備軍<sup>A</sup>としての学校、それを補完するものとしての工場においても、体育はもつとも重要なものと見なされていた。(a)

身体の近代化を押し進めたのはじつは愛国主義であり軍国主義だったということになるが、しかしその背後にはさらに重要な動き<sup>B</sup>が隠されていた。生産第一主義である。いかに効率よく生産力を上げるかということこそ、近代体育の、また近代スポーツの隠された主題だった。二十世紀の力半<sup>C</sup>を占めるのは米ソの冷戦だが、社会体制の違うこの両陣営が争っていたのは軍事力では必ずしもなかった。むしろ生産力だったのである。オリンピックは長いあいだ冷戦を反映したが、その間の最大の話題は記録の更新とメダルの数にほかならなかったのである。身体の祝祭を測る物差しが、国家の生産力を測る物差しと寸分も違っていなかったのだ。

米ソ二大国の没落と、生産第一主義への疑いの高まりが、ほぼ軌を一にしていたことに注意すべきだろう。芸術スポーツはこの変化を象徴するように登場してきたのである。新体操もシンクロナイズド・スイミングも一九八四年のロスアンゼルス・オリンピックから正式種目になった。もちろん、記録の更新とメダルの数が話題にならなくなったわけではない

が、それ以上に、美しさと感動が話題になるようになったのである。体育やスポーツを見る視線のこのような変化は、選手たちの表情や態度の変化にもはっきりと見て取れる。選手たちはもはや、国家の威信をかけるような悲壮な表情をしなくなった。競技を楽しむようになってきたのである。(b)

人は何のために生産するのか。消費するためである。より豊かに、より楽しく、より美しく生きるためである。多くの人がそう考えるようになってきた。生産第一主義から消費第一主義への移行である。かつて生産は美德で消費は悪徳だったが、いまでは逆に消費は豊かさの別名になっている。物質的な、では必ずしもない。生の時間をいかに豊かに過ごすかが、消費の内実であると誰もが考えるようになってきたのだ。芸術スポーツという言葉は、まさにこのような<sup>D</sup>潮流のなかに生まれてきたのである。

芸術スポーツのコーチたちは、審査員のみならず観客を感動させることがいかに重要かよく知っている。見るものの印象によって決定されるのが芸術点であるとするならば、その<sup>E</sup>サイ点は観客の反応をも考慮せざるをえなくなる。とりわけ新体操のグループ演技やシンクロナイズド・スイミングなどの場合、コーチの指導はほとんど演出に近いものになってくる。<sup>I</sup>、スポーツが舞台芸術化するのである。人によつては、勝敗が曖昧になるようである。これを嫌うかもしれない。だが、ひたすら記録の更新に邁進するよりは、はるかに健康的だろう。(c)

人はみな死ぬ。この事実<sup>F</sup>に耐えるために、人は踊ってきた。スポーツにしても同じである。人はそこで戦いの体験、死の体験を先取りしているのだ。ダンスを見、スポーツを見るということは、その体験とともに

するということである。それは、生きることの意味を全身で感じとるということにほかならない。芸術スポーツの登場とともに、この問題が深く考えられるようになってきたのである。

身体を与える感動は全身的なものだ。たとえば体操選手がミョウ技を披露するとき、人はただたんに目に見える美しさに打たれるわけではない。その呼吸、呼吸が感じさせる生命の音楽に全身が反応し、感動するのだ。<sup>\*</sup>聾啞者もまた音楽に感動するのはそのためだ。人はただ目で動きを楽しみ、耳で響きを楽しむのではない。動きは筋肉に伝播し、響きは皮膚を通して内臓にまで達する。これが、文字を持たない民族はあっても舞踊や遊戯を持たない民族はないことの理由である。(d)

言うまでもなく身体もまた自然である。舞踊であれ遊戯であれ、すなわちダンスであれスポーツであれ、身体演技とは自然との対話にほかならない。人はそのとき、自身の身体に、また他人の身体に、全身で聞かしているのである。身体もまた考えているのだ。文化とは頭脳によって担われると思われがちだが、その基層はより多く身体によって担われているのである。実際、頭脳は、自身の身体が担っている文化にしばしば気づかない。手の洗い方や、食事の仕方が、何を意味しているのか、ほとんど知らないのである。

あるいは、自然と文化を截然と分かつ考え方そのものが、いまや批判されるべきなのかもしれない。哲学者の木田元は、ハイデガーに依拠しながら、この二分法の由来がはるかプラトンにまで遡ると述べている。<sup>\*</sup>ソクラテス以前の自然哲学においては、自然とは、自身のうちに運動の原理を内蔵し、おのずから生成消滅するものと見なされていたのだが、プラトン以降、人間の制作行為のたんなる対象、

## II

な材料に

成り下がってしまったというのである。<sup>\*</sup>イデアの哀れな模写に転落してしまつたというのだ。木田元は、プラトンのそういう考え方の背後にユダヤ思想の影響を見ることができると示唆している。

哲学者の説まで引いたのはほかでもない。この自然観はそのまま身体観でもありうるからだ。人間が自然を支配するように意識が身体を支配するという考え方は、ヨーロッパ近代を貫通している。いまなお常識として通用しているとさえ言っている。III、この考え方は、世界史を遡り、その全域を見直してみると、逆にきわめて特殊なものに思えてくるのである。むしろ、ソクラテス以前の自然哲学のほうが一般的なものに思えてくる。

たとえば年齢の問題がそうだ。若さとはヨーロッパの発明であると述べたのは吉田健一だが、そのとおりだろう。ヨーロッパ近代においては、老いはまさに負の要素であり、負い目そのものだった。<sup>ウ</sup>若さを美德とするこの考え方の背後に、生産第一主義が潜んでいることは疑いない。効率よく生産するには青年のほうが適している。だが、人生を豊かに過ごすという意味での消費第一主義の見地に立った場合には、事情が違ってくる。見事に老いたものもまた価値を有するのである。事実、かつての日本においては、若く見られることのほうが恥ずかしいことだったのだ。

(三浦雅士「考える身体」による)

(注) \*聾啞者||耳が聞こえず、言葉を話せない人

\*截然と||はっきりと

\*ハイデガー・プラトン・ソクラテス||いずれも哲学者

\*イデア||絶対的な観念や理念

\*吉田健一||日本の文芸評論家

(1) 二重傍線部A～Fのカタカナと同じ漢字があてはまるものを、次の①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A 予<sup>||</sup>軍

① 賛<sup>||</sup>じ

② ビ蓄

③ 衰<sup>||</sup>じ

④ 首<sup>||</sup>じ

1

B 動<sup>||</sup>キ

① キ乗

② キ存

③ キ嫌

④ キ憶

2

C カ<sup>||</sup>半

① カ能

② カ臣

③ カ実

④ カ失

3

D チョウ流<sup>||</sup>

① 紅<sup>||</sup>チヨウ

② チヨウ衆

③ チヨウ望

④ チヨウ税

4

E サイ<sup>||</sup>点

① 交<sup>||</sup>サイ

② サイ来

③ 野<sup>||</sup>サイ

④ サイ集

5

F ミヨウ<sup>||</sup>技

① 大<sup>||</sup>ミヨウ

② 軽<sup>||</sup>ミヨウ

③ ミヨウ日

④ 寿<sup>||</sup>ミヨウ

6

(2) 傍線部ア「選手たちははや、国家の威信をかけるような悲壮な表情をしなくなった」とありますが、その理由を筆者が説明したものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① オリンピックが国家間の対立を象徴するようなものではなくなり、選手たちはスポーツすることの充足感を求めるようになったから。
- ② 強大国による競争に終止符が打たれてオリンピックが平和の祭典となり、選手は自分自身の技術向上に注力するようになったから。
- ③ オリンピックが記録の更新やメダルの数という実力主義から解放され、観客を意識した娯楽性の高いものに変質していったから。
- ④ 国家間の対立から個人の消費という視点へと世界の動向が変化する中で、選手たちは勝敗の曖昧な競技を好むようになったから。

(3) 本文中の空欄 I、II、III に入る語として最も適当なものを、次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

・空欄 I 8

・空欄 III 9

- ① だが
- ② たとえば
- ③ さて
- ④ なぜなら
- ⑤ つまり
- ⑥ そのうえ

(4) 傍線部イ「身体もまた考えているのだ」とありますが、それはどのようなことを表していますか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- ① 身体は自然の一部であるので、頭脳が論理的に思考する一方で、身体も周囲の自然とより深く関わり合うということ。
- ② 人は頭脳だけではなく身体全体で感動を覚えるのであるが、自分が持つ文化の基層は、身体によってのみ理解できるとのこと。
- ③ 身体を通して他者や自分の身体演技と向き合うことで、人は全身の感覚を用いて生きることの意味を感じ取っているということ。
- ④ 頭脳と身体の両方を適切に用いなければ、スポーツが与える身体内部へ届くほどの感動を覚えることはできないということ。

(5) 本文中の空欄 I、II に入る語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- ① 哲学的
- ② 無機的
- ③ 偶発的
- ④ 主観的

(6) 傍線部ウ「若さを美德とするこの考え方」とありますが、それに關する筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- ① 人間が自然を支配するという考え方から生まれたものであり、人間を自然の一部としてとらえる考え方とは大きく矛盾するものだ。
- ② 国力や生産性という観点から支持された考え方であって、人間の生活の豊かさを重視する立場を著しく否定するものだと言える。
- ③ 自然と人間のあり方を分けて考えようとする前時代の見方であり、人は老いてゆくという自然に逆らった理想主義的な考え方である。
- ④ 生産性を最も重視していた近代ヨーロッパにおける考え方であって、消費第一主義の見地からすれば一般的とは言えない。

(7) 本文の展開の仕方として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- ① 人間にとつてのスポーツの価値という視点で書かれており、哲学的な思考にまで及ぶ広範囲な思索を展開している。
- ② スポーツの発展の過程を世界レベルの歴史と関連づけて書いており、ヨーロッパ的思想への反発を主題としている。
- ③ 人間とスポーツのあり方を深く考察することで、人間と自然の關係性にも言及しつつ論を展開している。
- ④ オリンピックという身近な題材から、世界的な思想の流れと関連づけ、スポーツの意義を説明している。

(8) 次の一文を本文中に補う場合、(a)～(d)の中で最も適当な場所はどこですか。該当するところを次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

〈身体こそが最大のメディアなのだ。〉

- ① 〈a〉
- ② 〈b〉
- ③ 〈c〉
- ④ 〈d〉

(9) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- ① 国民の体力の向上は、生産第一主義においては最も重要な課題であったが、国家の関心が生産から消費に移行した現在では、身体的重要性はかつてのような意味を失い、空疎なものになった。
- ② 身体は国家の生産力を支えるものとして重要視されてきたが、オリンピックが娯楽性を重視したものになったように、身体は舞踊や遊戯を通して人生の喜びを表現する手段となった。
- ③ かつてスポーツでは身体の動きの美しさが追求されていたが、現代では人間の文化全体に影響を与えるまでに成熟しているため、新しい形の芸術表現として再評価するべきだ。
- ④ 国力の増強を背景とした生産第一主義のもと、身体の近代化が推し進められたが、身体も自然も人間が支配する対象であるという従来の考え方は、今一度見直す余地がある。

(10) 次の資料は、「成人のスポーツ実施率の推移」についての調査結果である。この資料から読み取ることができる内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- ① 週に一日以上スポーツをする男性の割合は、平成十五年から増加し続け、令和三年には約一・五九倍になっている。
- ② 週に一日以上スポーツをする女性の割合は、平成二十七年から令和三年にかけて約一・三七倍に増加している。
- ③ 週に一日以上スポーツをする人の割合は、男女を問わず平成二十七年を境に減少傾向が続いている。
- ④ 週に三日以上スポーツをする人の割合は、平成十八年から平成三十年にかけて約一・一五倍に増加している。

〔資料〕「成人のスポーツ実施率の推移」

(単位：%)

	H15	H18	H21	H24	H27	H30	R3
週1日以上 (全体)	38.5	44.4	45.3	47.5	40.4	55.1	56.4
週1日以上 (女性)	40.2	45.3	44.5	47.0	39.4	53.0	54.1
週1日以上 (男性)	36.6	43.4	46.3	47.9	41.7	57.6	58.5
週3日以上 (全体)	20.0	21.7	23.5	24.4	19.6	27.8	30.4

(スポーツ庁「令和三年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」より)

二 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

陰陽師（呪術や占いを行う人）である清明は、ある美しい少将が式神（呪術に使う神）にとりつかれて死ぬ運命にあることを見抜いた。清明はそのまま少将の家へ向かい、少将を守るために一晩加持祈禱をした。

秋の夜の長きに、よくよくしたりければ、<sup>あかつきがた</sup> 暁方に戸をはたはたと叩けるに、「あれ、<sup>ア</sup>人出して聞かせ給へ」とて聞かせければ、この少将の<sup>あひむこ</sup>あひ髯にて、<sup>くらうと</sup>蔵人の五位のありけるも、同じ家にあなたこなたに据ゑたりけるが、この少将をばよき髯とてかしづき、今一人をば殊の外に思ひ落したりければ、<sup>イ</sup>妬がりて、陰陽師を語らひて、式をふせたりけるなり。さてその少将は死なんとしけるを、清明が見つけて、夜一夜祈りたりければ、そのふせける陰陽師のもとより、人の来て、<sup>タ</sup>高やかに、心の惑ひけるままに、<sup>ホ</sup>よしなく、まもり強かりける人の御ために、<sup>オ</sup>仰をそむかじとて、式ふせて、すでに式神かへりて、おのれ只今式にうてて死に侍りぬ。すまじかりける事をしてといひけるを、清明、「これ聞かせ給へ。<sup>キ</sup>夜部見つけ参らせざらましかば、かやうにこそは候はまし」といひて、その使に人を添へてやりて、聞きければ、<sup>カ</sup>「陰陽師はやがて死にけり」とぞいひける。式ふせさせける髯をば、<sup>ク</sup>舅、やがて追ひ捨てけるとぞ。清明には泣く泣く悦びて、多くの事どもしても飽かずぞ悦びける。

〔宇治拾遺物語〕による

（注） \*あひ髯 妻の姉妹の夫

\*蔵人の五位 天皇のそば近くに仕える役職  
\*かしづき 大切にしている

\*ふせ 式神をこっそり相手のもとに忍ばせ  
\*高やかに 大声で \*よしなく わけもなく  
\*仰をそむかじとて 命令にそむかないようにと  
\*夜部 昨夜 \*舅 妻の父親

(1) 本文中で、「」が抜けている発話部分があります。その部分として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- ① この少将の 据ゑたりける
- ② この少将をば 思ひ落したりければ
- ③ 夜一夜祈りたりければ 仰をそむかじ
- ④ 心の惑ひけるままに ずまじかりける事をして

(2) 傍線部ア「人出して聞かせ給へ」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① 人をして聞かせなさい
- ② 人をして聞かされたらいい
- ③ 人が外に出て話し始めたから聞きなさい
- ④ 人を外に出して話を聞きなさい

(3) 傍線部イ「妬がりて、陰陽師を語らひて」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。19

- ① 家の中で自分だけが人の寄り付かない部屋に追いやられたから。
- ② 陰陽師の中で自分だけが力が劣っているように思われたから。
- ③ 家の中で自分は少将より冷たくあしらわれていると思ったから。
- ④ 親族の中で自分だけが出世の機会を逃してしまっていたから。

(4) 傍線部ウ「人を添へてやりて」の動作の主体を、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。20

- ① 少将
- ② 蔵人の五位
- ③ 晴明
- ④ その他

(5) 傍線部エ「陰陽師はやがて死にけり」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。21

- ① 晴明が式神の隙をついて、相手の陰陽師の呪いを奪い取ったから。
- ② 晴明が式神の呪いを、相手の陰陽師へはね返してしまったから。
- ③ 晴明の式神が命令を聞かずに、勝手な行動をとってしまったから。
- ④ 晴明が式神を説き伏せて、相手の陰陽師の弱点を攻撃させたから。

(6) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。22

- ① 少将は式神に呪われた自分の人生を悲観し、命を絶とうとするほど思い詰めたが、晴明に救われて本来の明るさを取り戻した。
- ② 少将が呪いを解かれた後に、晴明の助言を聞いて自分をねらった親族を家から追い出したので、晴明は泣いて喜んだ。
- ③ 少将が親族の企てで式神の呪いをかけられても、晴明は自分の力で見事に調伏したため、たくさんのお礼をもらった。
- ④ 少将は自分を救ってくれた晴明にお礼をできなかったことを後悔したが、晴明は少将の心情をくみ取り、その後の健康を祈った。

(7) 本作品（「宇治拾遺物語」）は鎌倉時代に成立した説話集です。この作品と同じく鎌倉時代に成立した作品として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。23

- ① 『竹取物語』
- ② 『土佐日記』
- ③ 『枕草子』
- ④ 『新古今和歌集』

〔三〕 次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。

有子曰、其為<sup>①</sup>人也

孝弟、而好犯上者、鮮<sup>②</sup>

矣。不好犯上、而好作<sup>③</sup>

乱者、未<sup>④</sup>之有也。君子

務<sup>⑤</sup>本立而道生。孝

弟也、其為<sup>⑥</sup>仁之本<sup>⑦</sup>

与<sup>⑧</sup>。

〔注〕 \* 孝弟＝親や年上の人を敬うこと

\* 本＝人間としての根本

\* 仁＝人間愛

(1) 傍線部①「為人」の意味として最も適当なものを、次の①～④の中

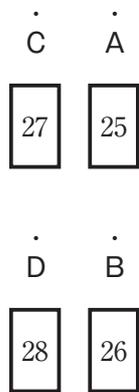
から一つ選び、その番号をマークしなさい。

24

- ① 目標
- ② 性格
- ③ 長所
- ④ 信念

(2) 傍線部②「好犯上者」が「上を犯すを好む者は」という書き下し文になるように返り点をつけるとき、次のA～Dに適するものを、それぞれ後の①～⑧の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい (同じ番号を何度選んでもよい)。

好犯上者



- ① 一
- ② 二
- ③ 三
- ④ レ
- ⑤ 下
- ⑥ 上
- ⑦ 下
- ⑧ 返り点なし

〔論語〕による

(3) 傍線部③「上」とありますが、漢文中と同じ意味で「上」が用いられている熟語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

29

- ① 机上
- ② 上着
- ③ 上座
- ④ 上昇

(4) 傍線部④「未之有也」は「未だ之れ有らざるなり」と読みます。この現代語訳として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

30

- ① 自ら反乱を起こすことは全くなかった。
- ② 必ず反乱を起こさねばならなかった。
- ③ 反乱を起こさないようにするべきだった。
- ④ よく反乱を起こすものであった。

(5) 傍線部⑤「本立而道生」とありますが、これについての説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

- ① 人としての基本に立ち返れば、自分に与えられた使命が次第に見えてくるということ。
- ② 人間の根本を大事にしていれば、自然と周りの人が手をさしのべてくれるということ。
- ③ 人が大切にすべきことが分かれば、大きな失敗を避けることができるということ。
- ④ 人としての根本を備えていれば、自然とどのように生きていくべきかが分かるということ。

(6) この文章が伝えようとしていることとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

32

- ① 周囲の人のために働こうとする気持ちが、平和をもたらすものだ。
- ② 家庭に不満を持たないでいることが、国を治める基本となるのだ。
- ③ 両親や目上の人を敬う心が、人間を愛する心の基盤となるものだ。
- ④ 仲間に親切にすることが、国内の平和を保つのに必要なことだ。

四

次の(1)～(4)の部首に分類される漢字として適当でないものを、後の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) きへん

33

(2) うかんむり

34

① 材  
② 村  
③ 束  
④ 相

(3) もんがまえ

35

① 聞  
② 閉  
③ 間  
④ 関

① 守  
② 空  
③ 完  
④ 宝

(4) にすい

36

① 冷  
② 凝  
③ 次  
④ 冶

五

次の(1)～(4)の意味を持つ故事成語として最も適当なものを、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 逃げられないと覚悟した上で物事に取り組むこと。

37

(2) 小さな差はあるが大した変わりはないこと。

38

(3) 人に疑われるような行動をしないこと。

39

(4) 他人の誤った言動を見て自分の成長に役立てること。

40

① 蛇足

② 背水の陣

③ 五十歩百歩

④ 朝三暮四

⑤ 他山の石

⑥ 矛盾

⑦ 李下に冠を正さず

⑧ 四面楚歌

六

次の傍線部の①～⑧の中から、(1)形容詞・(2)連体詞・(3)助動詞・(4)副詞をそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- ・<sup>①</sup>あらゆる事態を想定する。
- ・<sup>②</sup>さつさと宿題をすませたい。
- ・<sup>③</sup>われら、同じ夢を持つ仲間だ。
- ・そこに置いてあるものを<sup>④</sup>ください。
- ・<sup>⑤</sup>にぎやかな話し声<sup>⑤</sup>が聞こえる。
- ・<sup>⑥</sup>天気が悪い、<sup>⑥</sup>けれど<sup>⑥</sup>外出しよう。
- ・<sup>⑦</sup>会場にきた人々は<sup>⑦</sup>多かつた。
- ・<sup>⑧</sup>明日は<sup>⑧</sup>晴れる<sup>⑧</sup>そうだ。

(1) 形容詞

41

(2) 連体詞

42

(3) 助動詞

43

(4) 副詞

44

